

令和5年度 第3回 曳馬中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月16日（金） 9時55分から11時10分まで
- 2 開催場所 曳馬中学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 芳次、太田 悦則、鈴木 哲也、池村 俊典、  
平間 良明、中川 恭子、鈴木 秀住、上原 敬浩
- 4 欠席委員 佐藤 洋子
- 5 学 校 玉木 言明（校長）、平原 政和（教頭）、  
廣田 憲一（主幹教諭・CS担当）、今田 明子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 1人
- 8 会議記録作成 CSディレクター 今田 明子
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木芳次会長から鈴木哲也委員を推挙する旨の発言があり、全員異義なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 令和5年度学校関係者評価について
- (2) 令和6年度学校運営基本方針の説明
- (3) 令和5年度学校運営協議会自己評価について
- (4) 夢育やらまいか事業について

11 会議記録

司会の廣田から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 令和5年度学校関係者評価について

議長の指示により、主幹教諭廣田から、別紙資料に基づき令和5年度学校関係者評価について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・学校評価について、保護者と生徒の感じ方の差は当然あると思う。普段学校に居るわけではない保護者には判断できず、答えにくい項目もある。ブログ等での報告をしていくということだが、保護者に学校の様子が伝わるよう、どれだけ細かく伝えていくかで評価が変わっていくのではないかと思う。（芳次委員）
- ・休日の部活動の地域移行は進んでいるか。（哲也委員）  
→当初は令和8年9月から土日の部活動はなしという方針だったが、随時変更という形に変わってきている。他の行政では、土日も部活動のまま継続するというところもある。浜松市としては、来年度方向性を出す予定。国としては、クラブ移行を推進する流れになっていくと思われる。現小学校6年生が中学校で部活動を引退するまでは、今の形と変わらない。（玉木校長）

- ・「地域の活動やボランティア活動に参加している」の割合が低い。防災訓練参加の声かけを継続してほしい。具体的にどういう声かけをしているか。(平間委員)
  - 防災学習を通じて防災意識を高めさせている。現在、2年生が防災学習に力を入れている。常葉大学の方に話をしてもらったり、来年度修学旅行で神戸へ行ったりする。ボランティア活動に参加している生徒は、協働センター祭り等へ気持ちよく参加している。興味がある生徒とそうではない生徒に分かれているのが現状。興味のない生徒への啓発が必要。(玉木校長)
  - 災害時には中学生の力が必要。普段から地域とのかかわりを持っておくことが大切。防災訓練の参加証に判子をもらう制度はあるか。(平間委員)
  - ある。(芳次委員)
  - 「参加している」が54%だが、興味がある生徒はもっといると思う。防災訓練やお祭り当日の部活動なしも継続していく。(廣田主幹)
- ・いじめ防止等に関わる回答で保護者の肯定的な意見の割合が低い。校区内の曳馬小、上島小もほぼ同じような傾向である。生徒と保護者でとらえ方が異なっている場合があり、学校が対応し生徒は納得しているが、保護者が納得しないケースもある。保護者が過度な要求を行わないように、保護者全体に対して、いじめの定義等の話を行う必要性を感じる。(池村委員)

## (2) 令和6年度学校運営基本方針の説明

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和6年度学校運営基本方針の説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・(日課に関して)朝読書は必要か。生徒によっては、朝読書が苦痛ということもある。毎日、読書ばかりではなく、勉強や先生のためになる話の日があってもいいのではと思う。(太田委員)
  - 朝読書に関しては検討材料で、職員の中でも意見が分かれた。必要だという意見には、朝、授業の前に一旦落ち着いた時間を作りたい、読書の習慣も必要というものがある。今後は検討の余地があると考えている。(玉木校長)
- ・「担任との顔合わせ」の実施はとていいと思う。生徒が嫌な思いをした、嫌なことを言われた、されたなど、いじめに関するとらえ方については難しさを感じている。嫌なことは学校や社会のどこにでもある。そういう時の保護者のアドバイスは大切。すべてが自分の思い通りになることはないと教えることも必要。保護者や先生は、生徒を支えてあげるだけでなく、強くしてあげることも必要。(上原委員)
  - 昔と違い、優しい職員が増えている。生徒自身が自分に厳しくしていくしかないのが現状。(玉木校長)
- ・「担任との顔合わせ」はとていい。家庭訪問では、生徒の生活環境を知ることができていたが、先生、保護者共に負担が大きかった。生徒や保護者の性格や特徴、内面や病歴等も知ることができる。(中川委員)
- ・「担任との顔合わせ」という試みはとていいが、それだけで終わらず、中間にもう一回あるとなおいい。(哲也委員)

→面談は随時いつでもできるが、機会を作らないと話をしづらい保護者もいるので、こういう機会を設けた。(玉木校長)

- ・協働センターで行っている、土曜日学習支援による成果はあがっているか。(芳次委員)

→参加している生徒は楽しみで参加していると聞く。(玉木校長)

→最初は予算に苦労したが、現在は支援により何とかなっている。(芳次委員)

→中学生が小学生に、高校生が中学生に学習支援を行うことなどができると、支援を受けるばかりではなく、支援する側にもなることができ、さらにいいと思う。(玉木校長)

→父母や祖父母年代の支援者に甘えたり、逆に憎たらしいことを言ったり、学校とは違う関係性を築いている。勉強以外の行事もあり、楽しみもある。卒業後は教える側になってくれたらとの思いもある。(中川委員)

→この活動を継続していることで、様々なつながりができ、思わぬところから支援をいただくこともある。(芳次委員)

- ・防災学習の取り組みがとて面白い。石川の地震を受け、曳馬中として何か動きはあるか。(秀住委員)

→生徒会主導で募金活動を行い、10万円ほど寄付を行った。今の生徒会は防災学習を積極的にやってきた2年生が中心であり、石川の地震に衝撃を受け、すぐに自主的に動き始めた。(玉木校長)

→遠方からの短期的支援としては募金活動が相手に負担をかけない最もいい方法。現地の小中学生が避難所でボランティアをしているのを見た。防災学習を伝統的に残し、災害の際は戦力になってほしい。高齢者の避難等、中学生の力を借りたいことを地域からも提案させてほしい。やりがいを持つことで、いじめ問題等の諸問題もいよいよに向かうのではないかと感じる。(秀住委員)

→地域の独居老人の避難等、中学生が役に立つと思う。地域と一緒に進めていきたい。(玉木校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

### (3) 令和5年度学校運営協議会自己評価について

議長の指示により、主幹教諭廣田から、別紙資料に基づき令和5年度学校運営協議会自己評価について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・「ひくまの子」永久保存版を見た。公園一覧や町別浜松祭の法被一覧などがあり、とてもよかった。これは、地域への発信等はされるのか。災害の時に役に立つと感じる(哲也委員)

→健全育成会が発行している。今後のあり方について、現在アンケートを実施中。(平原教頭)

→アンケートの結果と予算との兼ね合いで今後発行されるかが決まる。(芳次委員)

- ・次年度の取り組みは、学校でまず協議、検討してもらえるといい。(哲也委員)

→学校のことは委員では分かりかねることもある。協議会で一から決めるというより、

学校で検討した案を審議する形がいいと思う。(芳次委員)

(4) 夢育やらまいか事業について

議長の指示により、教頭から、夢育やらまいか事業について次のように説明があった。

夢育やらまいか事業 CS 加算分を、部活動の夏季大会の県大会・東海大会出場の横断幕、職場体験の発送費として支出した。浜松市屋外広告物条例により、たいていの学校が来年から横断幕が設置ができなくなるが、曳馬中の現在の設置場所については来年度以降も設置可能。ただし、校舎に取り付けてある渥美万奈選手の横断幕については屋外向きのため不可である。

委員からは以下の発言があった。

- ・横断幕は宣伝広告ではないので除外できないか。(平間委員)
- 市の条例であり、教育委員会の管轄ではない。(玉木校長)

その他報告事項等

- ・主幹教諭廣田から、令和6年度職場体験等地域人材活用について報告があった。
- ・教頭平原から、1月実施の体罰に関するアンケートについて報告があった。
- ・主幹教諭廣田から、今回で学校運営協議会第1期が終了になる旨の報告があった。
- ・今後の予定  
第2期 令和6年度第1回学校運営協議会：令和6年5月10日(金)10:00～

以上